（４）②様式第４号－２（報告書）

※原稿サイズはＡ３、文字は Meiryo UI ／12 ポイント以上、余白は 10mm 以上で記入してください。
※各項目の枠の幅は自由に変更していただいて構いません。写真等添付することも可能ですが、必ず用紙の中に納まるようにしてください

【案件名】教職大学院と教員委員会の連携・協働支援事業（nits café）報告書

案件概要： **Describe the project**

※戦略・アイディア、テーマの詳細や実施方法を含めて記載してください

目的：小学校英語の教科化や、国際理解教育が新学習指導要領で学校に入ってきたり、「主体的・対話的で深い学び」を目指す教科授業の改革を求められ、学校の中堅層は自分の授業の改革をすると同時にこれから大量採用で入ってくるたくさんの新人に対して指導もしなければならない。これらの不安を nits café というリラックスした場で互いに出し合い、協働で解決案を探ることで、悩んでいるのは自分だけではないという共感を互いに持ってもらうのが目的である。また、そのざっくばらんな意見、感想を県教育委員会職員、教職大学院の教員が吸い上げることで、教育現場の今日的課題を解決する糸口とするのが目的である。

テーマ：学校で行うグローバル人材育成とこれから求められるミドルリーダーの資質・能力について

実施方法：ワールドカフェ方式と講義

実行： **Execution**

※開催日時・場所、参加した人数（属性ごと）、当日プログラム、実施の様子等を具体的に記載してください

場所：長野県総合教育センター（平成 29 年 9 月 15 日（金））
参加人数：現職教員 16 名　長野県総合教育センター職員 2 名　上越教育大学教職大学院教員 4 名　合計 22 名
実施プログラム
10:30～11:30 講義「学び合いと ICT 活動で取り組む外国語活動Ｊ講師：水落芳明（上越教育大学教職大学院教授）
12:30～13:30 演習「学校で行うク白ローパル人材育成はどうしたらよいか」コーテ・イネーター：桐生徹（上越教育大学教職大学院教授）
1) 4～5 名のグループになり、付箋紙に「グローバル人材育成」に関する疑問点、意見、感想などを下記、ワールドカフェ方式でコメントを加えながら模造紙に貼り付け、グループ化し、問題点を整理していく。
2）整理後、他グループの模造紙を見に行き、説明を聞く。
15:30～16:10 講義「多文化多言語社会におけるグローバルでローカルな授業づくり」講師：原瑞穂（上越教育大学教職大学院准教授）

場所：新潟県教育センター（平成 29 年 9 月 19 日（火））
参加人数：現職教育 48 名新潟県教育センター職員 13 名上越教育大学教職大学院教員 5 名合計 66 名
実施プログラム
10:20～10:30 趣旨説明コーディネーター：片桐史浴（上越教育大学教職大学院准教授）
10:30～12:20 演習「これから求められるミドルリーダーの資質・能力とは」
講師：赤坂真二・西川純（両名とも上越教育大学教職大学院教授）
1）4～5 名のグループで、これから求められるミドルリーダーの資質能力について、不明なところ、不安なところを出し合い、付箋紙に記入していく。
2）全面に出したホワイトボードに講師に解説してもらいたいことをグループの中で優先順位を付け、貼り付けて行く。
3）休憩時間にホワイトボードに貼り付けられた他の班の意見や感想等を読み、共有する。
4）2 人の講師が貼り付けられた付量産紙をもとに、学校現場の今日的問題の情報と対応策などを話していく。　2 会場合計 88 名の参加

成果： **Results**

※参加者の感想を含め記載してください

ワールドカフェ方式でまずは参加者の問題意識を明らかにし、整理し、その後講師が学術的なことも含めて解説、対応策を述べるという形式で会を催すことにより、論点が絞られ分かりやすいものになった。参加者のから「気軽な話し合いができた」、「聞きたい話が聞けた」、「学校現場でもこのような場があると良い」、「トーク＆リラックスというアットホームな場が良かった」、「一方的に話を聞くだけというのでは無く、出席者の疑問に答えてくれるのがよい」という感想を頂いた。

お茶を教職大学院側で用意し、リラックスできる場を演出できた。長野会場ではお菓子も個人の予算で用意して場をやわらげる努力をした。

普段繋がりのない先生たちがグループになり、学校の問題をざっくばらんに表出することができたようで、先生方のストレス発散の機会になった。